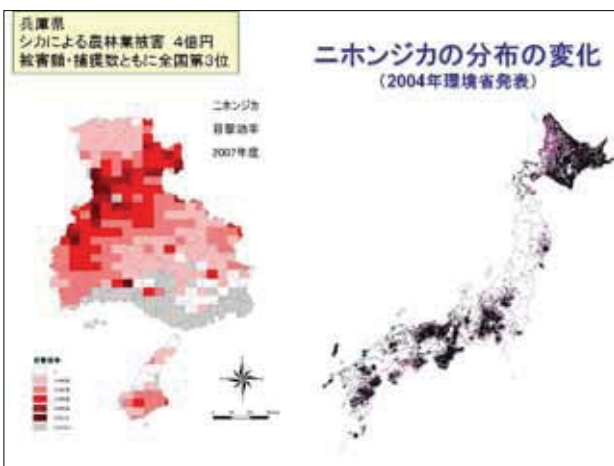
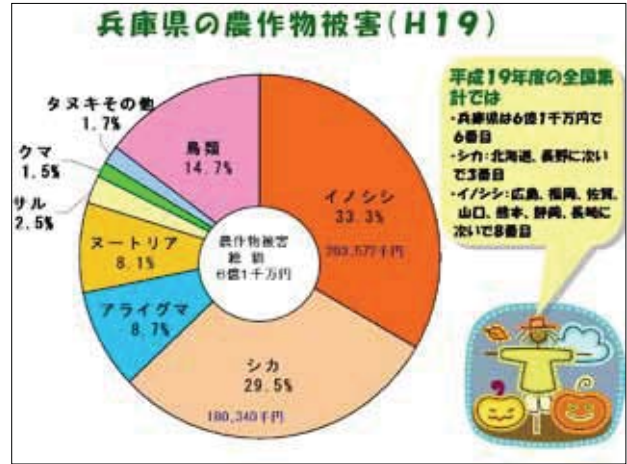
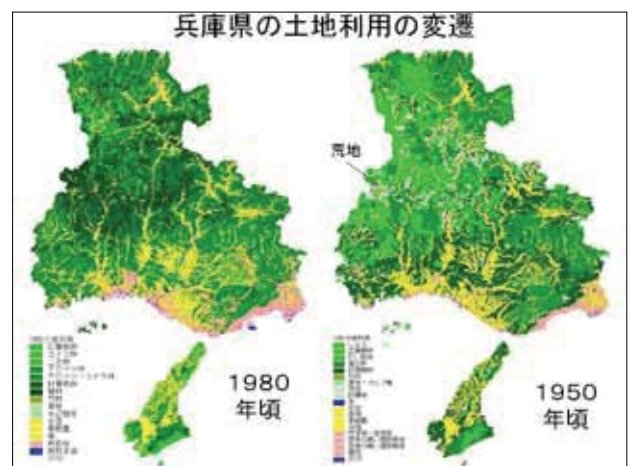
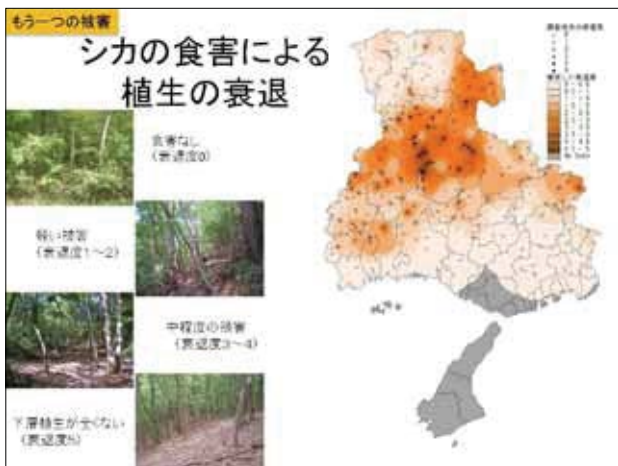
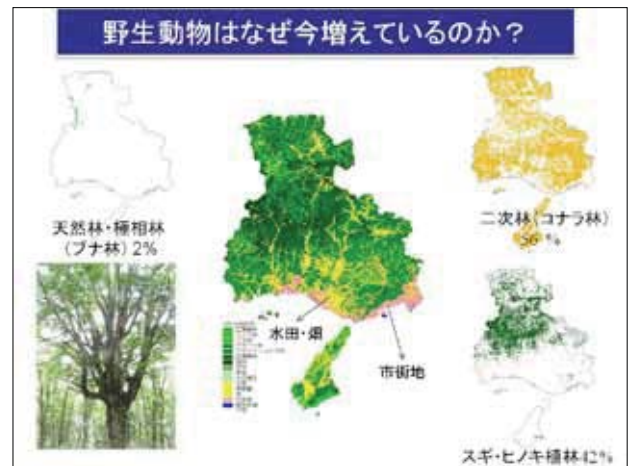
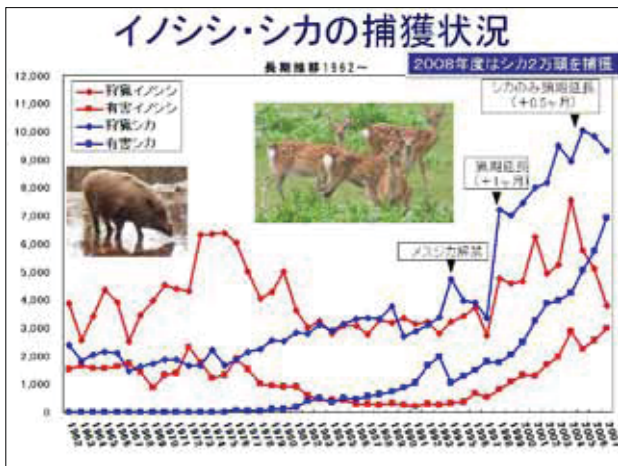


兵庫県におけるニホンジカの保護管理の現状と未来

Sika Deer Management in Hyogo Prefecture - Currently and in the Future

横山真弓 兵庫県立大学 准教授 森林動物研究センター 主任研究員
 Mayumi YOKOYAMA Associate Professor, University of Hyogo Wildlife Management Research Center, Hyogo





戦前の人間の暮らしーオーバーユースによる山の荒廃

- 里山
 - 刈藪農業
 - 炊事用燃料の採取
 - 製炭用燃料の採取
- 奥山
 - タタラ製鉄
 - 炭山の精錬用燃料の採取
 - 馬鹿用牛馬の飼料採取

1 信濃善光寺平の炭田風景(善光寺道名所研究会)

社会構造的に、森林資源に依存していたゆえ、山は荒廃した。

乱獲と保護の時代

明治・大正時代(人口:4~5000万人)

・食肉(シシ、シカは獲物の筆) 明治12年(北海道)官営「シカ肉缶詰工場(輸出用)」
→乱獲と大雪のため、シカが激減3年後に工場は閉鎖

・毛皮の輸出
大正14年、横浜港から44万枚、神戸港から27万枚

狩猟/パル

昭和初期(人口:6000万人)

・保護政策と密猟と乱獲の時代
→家畜・化学繊維・輸入皮革・保護思想など

軍部による猟友会の組織化など

各地域から絶滅、限られた一部にわずかな個体群が残存
(針葉樹林帯、保護地域など)



狩猟員小山市

科学的データに基づくシカ管理

被害を減らし、安定的な個体群の維持を目指すため、今は捕獲が必要

1. 個体数の増減傾向のモニタリング
2. 農業被害の増減傾向のモニタリング
3. 森林環境への影響モニタリング
4. シカ個体群の健全性のモニタリング



・被害管理、生息地管理、個体数管理の適切な実施

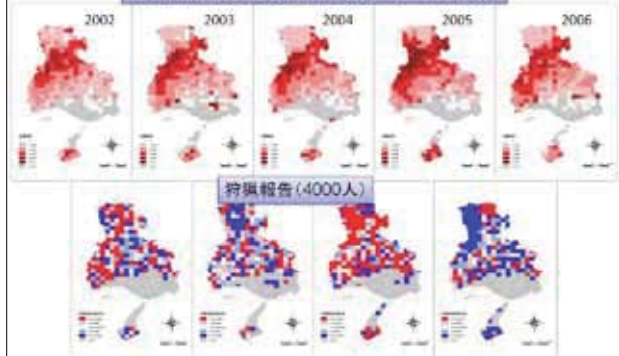


猪垣(シシガキ)

2mを超えるものも残っているため、イノシシだけでなくシカ対策として利用されていた。

1. 個体数の増減傾向のモニタリング

狩猟カレンダーによる目撃効率の動向
(狩猟銃銃弾の1人1回出撃あたりの目撃頭数)



人が利用しなくなった結果!

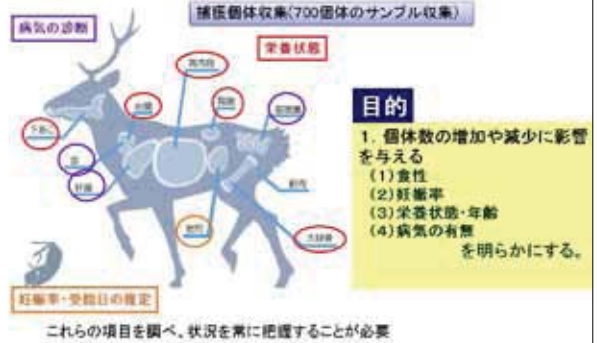
シカの密度分布

シカの食害による下層植生の衰退



4. シカ個体群の健全性のモニタリング

捕獲個体収集(700個体のサンプル収集)



- 目的
1. 個体数の増加や減少に影響を与える
 - (1) 食性
 - (2) 妊娠率
 - (3) 栄養状態・年齢
 - (4) 病気の有無
- を明らかにする。

これらの項目を調べ、状況を常に把握することが必要

高密度化が及ぼす影響

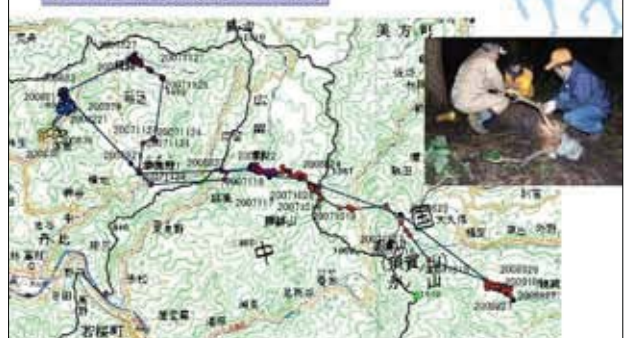
・密度が高まり餌が少なくなるとシカにはどのような影響があるのか?

下層植生がなくなると何を食べるのだろうか?
餌をめぐる競争が激化するとシカたちは生き残れるのか?



5. 移動ルートや分布拡大の状況

水ノ山山麓で捕獲したあるオスジカの行動





シカ肉の特徴

シカ肉は「ヘルシー」!

シカ肉は低カロリーなのに高タンパク。さらに鉄分などのミネラルが大量含まれます。アレルギー疾患を引き起こすアレルギー成分も少なく、非常に優れた健康食品です。

- その1 低カロリー**
カロリーは牛肉の3分の1程度しかありません。落ちこぼれ肉として、食べやすいことが特徴です。
- その2 低脂肪**
脂質は牛肉の96分の1と大変ヘルシーなお肉です。ダイエット食品としても注目されています。
- その3 高たんぱく**
高たんぱくで知られている。鶏のササミと同様のたんぱく質含有率があります。
- その4 鉄分が豊富**
レバーや肉と黒いペルの鉄分やミネラルを含んでいます。

まだまだ多いお料理があります

ニホンジカ個体群の現状把握と方針の決定

兵庫県の森林とシカの現状

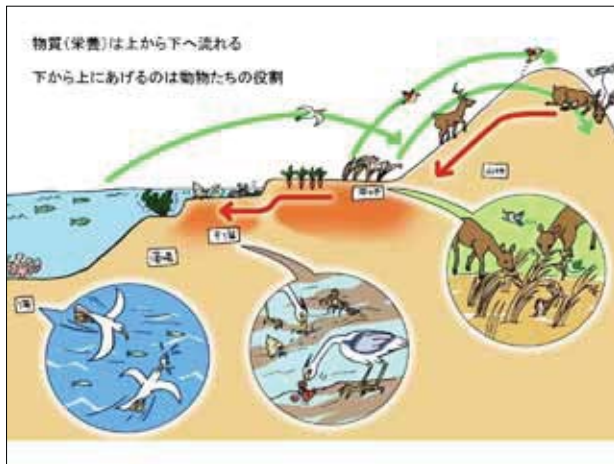
- 森林植生の衰退が著しい。
- 妊娠率の低下は見られない。
- シカの食べているものの質は良好
- シカが減る兆候はない。当年20,000頭/年以上をとり続けなければならない。

シカの状態、森林の状態を監視しながら状況に応じた管理を行う

Illustration: Takahashi Kenji

有効活用プロジェクト

狩猟等により捕獲された野生動物資源の有効活用に向けた情報の収集、解析、並びに情報発信を行うことにより需要の拡大を図り、シカの付加価値を高めることにより捕獲数の増加を図る。



シカ肉活用の普及活動

人と自然の持続可能な共生の会(青森)

シカ肉料理教室(岡山)

人と自然の持続可能な共生の会(青森)のシカ肉フェア(山形)



地域からの草の根的活動

しかコロッセ

佐用町商工会青年部



ニホンジカ有効活用研究会設立の経緯

- 草の根的に各地でシカ肉の有効活用の機運が高まっていた。
- 正確な情報が伝わらず、同じ不安を抱えながらの活動が多かった。
- シカについての知識が少なく、食肉に関する安全性等について、微妙な活動もあった。
- 十分な情報収集と情報発信が必要な状況であった。
- 現場の実情と乖離しない有効活用の方針の決定



みんなで大鍋

- 食べ物は生き物であるとの認識に基づき、田んぼや水路、里山、海など地元で取れる生き物をみんなで食べる。
- シカ肉は重要な食材です。





丹波市商工会の取り組み

丹波の産物を特産品として加工・販売まで丹波で取り組む
 黒豆・栗・米のほか、鹿肉も丹波の特産物として商品化に取り組んでいる

産肉加工施設 → お土産品
 レストラン

丹波姫もみじ
 北海道のガイドラインに準じた衛生処理
 トレイサビリティーの徹底



ニホンジカの資源的活用の課題

- ① 山中で捕獲される個体の衛生的な処理をどのように確保するのか。
- ② 家畜における「と畜検査」に対応する検査が必要となるのか。
- ③ 資源活用による利益追求により、過剰な捕獲行為が発生するという懸念の払しょくが必要。
- ④ 野生鳥獣の肉を食肉とすることに対する漠然とした抵抗感



安心安全の担保、ニホンジカの科学的管理の普及啓発

兵庫県における有効活用のガイドラインの作成 に向けた調査研究

1. 県内に生息するニホンジカの人畜共通感染症サーベイランスの実施

・これまでの調査研究からニホンジカの人畜共通感染症として問題となる疾病は少ないものの、不安を払しょくするデータを収集し、データの提示と定期的な監視体制を構築する仕組みを検討する。

- ① 個体群の性・齢・地域別の栄養状態・妊娠率などの基礎データの収集 (研究センター)
- ① E型肝炎ウイルス、リケッチア等の感染症調査 (研究センターと岐阜大学)
- ② 寄生虫調査 (山口大学)
- ③ CWD (シカのプリオン病) の検査 (動物衛生研究所)

2. ガイドラインの作成と検討会による検証作業 (H22)

